

演習（ロシア政治・外交）の進め方

1. 春学期の今後の予定

5月30日 今後の方針の説明

6月6日 新聞合評

各自、ロシア関連の興味のある新聞記事・評論等を取り上げ、概要を説明し、コメントをする。新聞記事の場合、コピーを配布する。

6月13日 新聞合評

6月20日 論文合評

各自、以下の論文のいくつかを読み、質問またはコメントをする。

1. 「ロシア現代政治入門」（吉田研作編『外国研究の現状と未来』上智大学出版、2010年3月、所収）
2. 「2005年12月のいわゆる『NGO関連法』修正法』の制定過程について」（『ロシアの政策決定－諸勢力と過程』日本国際問題研究所、2010年3月、所収）
3. 「ロシアにおける連邦制改革－ブーチンからメドヴェージェフへ」（『スラブ・ユーラシア研究報告集 No.2 体制転換研究の先端的議論』2010年4月、所収）
4. 「下院選から大統領教書、そして改革へ？－2011年12月下院選に対する『不正のない選挙のために』運動の意味とその影響－」（日本国際問題研究所編『ロシアにおけるエネルギー・環境・近代化』2012年3月、所収）
5. 「第二次ブーチン政権下のロシア政治」（溝端佐登史編著『ロシア近代化の政治経済学』文理閣、2013年4月、所収）★配布済み

6月27日 論文合評・研究計画書（案）の提出

研究計画書については、2ページ以降の「研究計画書の作成の手順」を参照

7月4日 研究計画書（案）についてのディスカッション

7月11日 研究計画書（案）についてのディスカッション

7月18日 研究計画書（案）についてのディスカッション

7月25日 研究計画書の提出（春学期の評価）

2. ゼミ合宿について

9月20日（金）～22日（日） ゼミ合宿（青梅市御岳を予定）

ゼミ合宿では、1人少なくとも30分の研究中間報告をおこなう。

ゼミ論文の提出日は2014年2月10日（月）

研究計画書の作成の手順

1. 研究計画書の概要

研究計画書には以下のような事柄が書かれなければならない。

- ①研究テーマ
- ②研究テーマを決めた理由、動機または問題意識または背景事情の説明
- （③研究の目的）
- ④研究の方法または手順（⑦を含む場合もある）
- （⑤研究の意義）
- （⑥研究に期待される成果）
- ⑦参考文献および資料

2. 研究計画書の書き方

2.1. 研究テーマとは何か

研究テーマとは、これから書こうとする論文のタイトルである（ことが理想的である）。

プロの研究者にとっては、研究テーマは個々の論文のタイトルよりも幅が広く大きいものであるが、学生の場合は、まずは卒業論文1本を作成することが最終目標であるから、研究テーマは可能な限り、具体的かつ狭い範囲のものとして設定することが望ましい。

例えば、「チェーホフについて」では、プロの研究者の生涯の研究テーマとはなり得るが、個々の論文のテーマとはなり得ない。では、「チェーホフの『桜の園』について」であれば、ある程度、具体的であるから、研究テーマすなわち論文のタイトルになり得るだろうか。いや、これでもまだ大きすぎる。「チェーホフの『桜の園』の何について書くのか？」という疑問が出てくるからだ。そこで、さらに、「チェーホフの『桜の園』と太宰治の『斜陽』の比較」とすれば、かなり具体的なテーマとなり、論文のタイトルとして、よりふさわしくなる。しかし、『桜の園』と『斜陽』のどういう点にとくに着目して比較したのか？という次の疑問が出てくる。そこで、「チェーホフの『桜の園』と太宰治の『斜陽』の比較―両作品の共通点としての喜劇性に着目して―」とサブタイトルをつけることで、テーマがより明確になる¹。

2.2. 研究テーマの決め方

研究テーマを決めるときに最も重要なことは、書きたいテーマではなく、書けるテーマを選ぶということである。自分自身で任意のテーマを選んで論文などを書く場合、テーマは、もちろん任意のテーマ、つまり書きたいテーマを選んでよいが、一定の分量の論文を定められた期限までに書かなければならないので、実際にはどんなテーマでもよいわけではなく、その期限内で書き終えることのできるテーマを選ばなければならない。いくら興味深く、面白そうなテーマでも、書き上げられなければ元も子もない。

書けるかどうかは、論文を書くための材料、つまり選んだテーマについての本（先行研究）や資料がある程度、入手できるかどうかで見極めることができる。10本程度の先行研究と、アクセスできる資料などが数点あれば、卒業論文・ゼミ論文としてある程度のことが書ける。選んだテーマに関係する本や資料があまり入手できない場合には、書き上げるのは困難である。その場合には、テーマを修正または変更しなければならない。

研究テーマの決め方には、その内容によって、いくつかの方法がある。

①段階的な絞り込み

前項2.1で、「研究テーマとは、これから書こうとする論文のタイトルである（ことが理想的である）。・・・研究テーマは可能な限り、具体的かつ狭い範囲のものとして設定することが望ましい」と書いたが、まだ何も勉強していない段階で、そのような「具体的かつ狭い範囲の」テーマを決めることは難しい（まったく不可能ではないが、慎重な人ほど難しいと感じるはずである）。

そこで、とりあえず研究テーマを決めて勉強を始め、少し勉強が進んだところで研究テーマを絞り込むことにしよう。また、少し勉強してみたところで、まったく別の研究テーマに変えるということもあるだろう。

¹ 実際、ロシア語学科の2000年度の卒業論文として、「チェーホフ『桜の園』と太宰治『斜陽』の比較：両作品の共通点としての喜劇性」という論文が提出されている。『学科便覧』に最近のロシア語学科の卒業論文のタイトルが掲載されているので参考にしよう。

まったく別の研究テーマに変えるということがない場合でも、最終的な研究テーマは、少なくとも2つめ、多くの場合、3つめぐらいの研究テーマだと考えてよい。前項の例でいえば、まずは「チェーホフについて」という研究テーマを決め、少しチェーホフの作品やチェーホフについての研究書を読み進め、『桜の園』について取り上げようと思いつき、「チェーホフの『桜の園』について」という研究テーマに絞る。さらに、『桜の園』についていろいろ調べていくうちに、太宰治の『斜陽』との共通性に気づき、最終的な「チェーホフの『桜の園』と太宰治の『斜陽』の比較—両作品の共通点としての喜劇性に注目して—」という研究テーマが決まるという具合である。

②キーワードの書き出しと関連づけによる研究テーマの発見

文学の分野では、最初の段階で、好きな作家や作品がある場合が多く、2.2.①のような、絞り込みの方法で研究テーマを決めることができる場合が多い。しかし、政治、外交、経済、歴史などの分野では、あれこれといろいろなこと（断片的なこと）に関心や興味が分散していることが多い。

例えば、政治の分野でも、「ブーチン」、「デモ」、「民主化」、「人権」、「選挙」、「資源産業」、「近代化」、「議会」、「憲法」、「地域格差」、「民族問題」、「権威主義」など、いろいろなことが頭に浮かんできて、研究テーマがまとまらないということがある。

こういった場合、関心や興味のある事柄（キーワードと言ってもよい）と、それから連想される言葉を、小さなメモ用紙（単語カードのようなものがよい）や付箋などに書き出し（10～30枚くらい）、それらすべてを見渡せるように机の上に並べ、関連性のあるものをグループ化しながら、自分の考えていることを整理していくことで、自分がいちばん関心のある研究テーマを見つけ出すという方法がある。

③先行研究の中からの発見

絵画、書道、音楽、舞台芸術、映像芸術などの分野では、一流の作品やアーティストを模倣することが基礎練習の一つとなっている。研究も同様である。研究の場合は、最終的な作品の段階で、一部分であっても、模倣（コピー）があれば、盗作となるが、先行研究の論文のタイトルや構成をヒントにすることはよくあることである。

関心や興味のある分野の先行研究を読んだり、あるいはタイトルを見たりするだけで、自分自身の研究テーマを発見することができる場合がある。いずれにしても、先行研究を読むことは研究にとって必要不可欠のことであるので、その過程で、先行研究をヒントにしながら、研究テーマを絞り込んでいくことができる。

2.3. 研究計画書に書く研究の方法または手順

研究計画書における研究の方法または手順は、おおむね、以下のようなものとなる。

- ①先行研究をリストアップし、順次、読んでいく（研究計画書にはおもな先行研究を具体的に挙げる）。
- ②資料を読む（翻訳する）（研究計画書にはおもな資料を具体的に挙げる）。
- （③インタビューや調査を実施する（研究計画書には具体的なインタビューの対象や調査内容を書く。））
- （④インタビューや調査を整理する。）
- ⑤論文またはレポートを執筆する。

2.4. 実際の論文の作成の方法または手順

実際の論文の作成の方法または手順はおおむね以下のようなものとなる。

- ①テーマを決める。
- ②論文の目次（構成）を決める。
- ③参考文献（先行研究）・資料リストを作成する。
- 作成したリストを指導教員に提出しチェックを受ける。
- ④参考文献（先行研究）を読む。

参考文献（先行研究）は、漫然と読まず、重要と思われる箇所、論文で使えそうな箇所があったら、付箋を貼り付けたり、マーカーで印をつけたり、余白に書き込みをしたり、抜粋ノートやカード²を作成したりしながら読み進める。また、必ずしも最初から最後まで通読する必要がない場合もある。抜粋ノートやカード

² ここでいうノートやカードは、実際のノートやカードではなく、パソコンのファイルでもよい。パソコンで論文やレポートを作成するのであれば、ノートやカードもパソコンで作成した方が便利という考え方もある。ただし、一覧性は、パソコンよりも、実際のノートやカードのほうが優れている。またノートを使う場合、ページの入替えが可能なルーズリーフを使う方が便利である。

は、日本語文献の場合は、そのまま抜粋せず、概要などをメモする程度でもよい。ただし、どの本（論文）の何ページかを必ずメモしておく。

なお、文献の一部だけをコピーした場合には、タイトルがわからなくなるので、著者、文献名（雑誌論文の場合は論文名と雑誌名）、出版社（単行本の場合）、出版年（雑誌の場合は月日・巻号など）を必ずコピーの余白にメモしておく。

⑤書きためたノートやカードを参照し、必要に応じて、テーマ別や時系列（歴史的な研究の場合）に並べ変えたりしながら、論文やレポートの構成に沿って、ノートやカードを整理し、並べる。このときに、論文またはレポートの構成（章立て）を変更してもよい。

⑥整理したノートやカードを参照しながら、論文やレポートを書き始める（もちろん、書きながら、文献も読む）。

抜粋ノートのページ数やカードの枚数がある程度たまれば、論文が書ける。

リストアップした参考文献（先行研究）のすべてを読み終わってから書き始めるのではなく、ある程度読んだところで、論文を書き始める。そして、書きながら、また読むようにすると、要領よく読めるし、速く作業が進む。

論文やレポートは必ずしも、最初から書き始める必要はなく、どこから書き始めてもよい。書きやすいところから書くのがコツである。序文をいちばん最後に書いたり、結論をいちばん先に書いたりすることもある。

この間に、テーマや目次（構成）の修正、変更をする場合もある。

⑦中間報告

実際に書いた論文の文章（一部）を指導教員とのあいだメール添付ファイルでやりとりしたり、直接、面談したりしながら、添削や指導を受ける。

⑧仕上げ

2.5. 参考文献および資料

参考文献表には決まった書式があるので、それに従って記述する。

邦文文献は著者の五十音順、欧文文献はアルファベット順とする。

以下は典型的な形式である。

1. 上野俊彦（2001）『ポスト共産主義ロシアの政治—エリツィンからプーチンへ—』日本国際問題研究所。
2. 小森田秋夫編（2003）『現代ロシア法』東京大学出版会。
3. 下斗米伸夫（1997）『ロシア現代政治』東京大学出版会。
4. 溝口修平（2011）「ロシアの『強い』大統領制？—『重層的体制転換』における制度形成過程の再検討—」『ヨーロッパ研究』第10号、51-72ページ。
5. Barany, Zoltan and Robert G. Moser (eds.) (2001) *Russian Politics: Challenges of Democratization*. Cambridge, New York, Oakleigh, Madrid, and Cape Town: Cambridge University Press.
6. Barnes, Andrew (2001) "Property, Power, and the Presidency: Ownership Policy Reform and Russian Executive-Legislative Relations, 1990-1999," *Communist and Post-Communist Studies*, Vol. 34, pp. 39-61.
7. Brown, Archie (ed.) (2001) *Contemporary Russian Politics: A Reader*. Oxford and New York: Oxford University Press.
8. Brown, Archie and Lilia Shevtsova (eds.) (2001) *Gorbachev, Yeltsin, and Putin: Political Readership in Russia's Transition*. Washington, D.C.: Carnegie Endowment for International Peace.
9. Lane, David and Cameron Ross (1999) *The Transition from Communism to Capitalism: Ruling Elites from Gorbachev to Yeltsin*. Macmillan（溝端佐登史・酒井正三郎・藤原克美・林裕明・小西豊記（2001）『ロシアのエリート』窓社）。
10. Беляева Людмила (2001) *Социальная стратификация и средний класс в России*. Москва: «Akademia».
11. Гельман В., С. Рьженков, М. Бри (ред.) (2000) *Россия регионов: Трансформация политических режимов*. Москва: Издательство «Весь Мир».
12. Голенкова З. Т. (ред.) (1999) *Социальное расслоение и социальная мобильность*. Москва: «Наука».
13. Попов, М. В. (2008) Администрация Президента России, *Полит*, 2008, № 4, с. 24-45.